

甲府一高新聞

4月号

発行所
甲府一高新聞部
甲府市美咲二丁目13-44

誓いを新たに入学

219人が新たな門出を迎える

桜雨だった4月9日、令和6年度入学式が本校体育館で行われた。式には新入生、保護者、来賓、職員が出席した。普通科159人、探検科60人、計219人が一高の一員となった。

新入生は緊張した面持ちの中、保護者来賓の多くの方々に見守られながら入場した。式では国歌斉唱の後、飯島清樹校長先生より入学が許可された。式辞では新入生に向けて



【新入生を迎える校舎】

「先輩方が築いてきた輝かしい歴史と伝統を新入生の皆さんが引き継いでいく。先輩方には負けて自己を鍛錬し、研鑽を積んで毎學年を邁進してほしい。山梨から日本、世界で活躍する人材となることを期待している」と述べた。

さらには、読書をする中で自分とは異なる視点が増え、知識を確固たるものにできるため読書を積極的にしてほしいことや、ここに集まった仲間が偶然ではなく必然だったと思える3年間を送ってほしいと願う言葉が新入生に送られた。新入生代表である荒井さんは「高校生でしかできない経験を通して、それぞれが進む道を切り開いていくことができるよう、仲間と支え合いながら様々な活動を積極的に取り組んでいきたい。伝統ある甲府一高で支えてくださる方々に毎日当たり前前に過ることに感謝し、目標に

向かってひたむきに努力したい」と誓った。閉式後には、ア・カペラ部、生徒自治会役員が、弦楽部の伴奏により校歌を披露した。普通科の新入生は「中学校の勉強よりも内容が濃く、難易度が上がると思うので、今よりも一層勉強に集中したい。また、部活にも一生懸命取り組み、文武両道に励んでいきたい」と話し、探究科の新入生は「高校生生活は楽しみである一方、勉強についてもいけるか不安である。また、地球温暖化対策について積極的に探究活動に取り組んでいきたい。



【入学への想いを述べる荒井美乃里さん】

甲府第一高校の校是の一つに「天地の化育を賛く」があります。校長室前の銘板には、「宇宙における物質の変化、生物の育成は全て天地自然の力によるものであって、人間はその力を賛助するものである」と記されています。出典は四書五經の一つ「中庸」です。この書の、この章句が記



「賛天地之化育」考

校長 飯島 清樹

されている部分を広げてみます。「唯だ、天下の至誠のみ、能くその性を尽くすと為す。能くその性を尽くせば、則ち能く人の性を尽くす。能く人の性を尽くせば、則ち能く物の性を尽くす。能く物の性を尽くせば、則ち以て天地の化育を賛くべし。」(ただ、この世で最も完全に誠を備えただけが、その本性をあらがままに十分に發揮する

ことができるものだ。自分みずみず。唯だ、天下の本性を十分に發揮すること、他人にも至誠のみ、能くその性を尽くすと為す。能くその性を尽くせば、則ち能く人の性を尽くす。能く人の性を尽くせば、則ち能く物の性を尽くす。能く物の性を尽くせば、則ち以て天地の化育を賛くべし。」(ただ、この世で最も完全に誠を備えただけが、その本性をあらがままに十分に發揮する

4月12日、応援練習が本校の体育館にて行われた。例年と異なり、今年は一日のみの実施となった。応援委員の先輩たちに先導され入場してきた1年生に対し、飯島校長先生は、「やるからには積極的に取り組んでほしい。受け身では身につくものも身につかない。上級生に対し感謝の気持ちをもって取り組んでほしい」と話した。校歌に続き、一高オリジナルの応援歌である「希望の光」(起て撃て勝て)が披露された。春休み中練習を重ねた応援委員の声と吹奏楽部の演奏が、体育館内に共鳴していた。その後姿を見た1年生は、水分補給の際せき込む程に頑張っていた。さらに「突撃一高」「一高アトム」も披露された。最後

繋がれていく想い

応援練習

に、応援団長の大森朝陽さん(3年)が「応援練習の意味とは、想いを『繋ぐ』ことだと思う。今日繋がったということ意識してこれからも取り組んでほしい」との言葉を残し、全体での応援練習は幕を閉じた。参加した1年生からは「演奏も相まって迫力があって」「自分たちも先輩達の想いを繋いでいきたい」と前向きな声が上がった。長い歴史をもつこの行事をこれからも受け継いでいきたい。



【応援団長の大森朝陽さん】

我が精鋭



1学年主任・英語科
中込 実穂先生

教師を志した理由
教師は第2志望。高校3年次の担任との出会いにより、子どもの可能性を少しでも広げたいと

思った。当時の私は、教師側からすると扱いにくい生徒だったと思うが、その担任は私の良いところも悪いところも全て受け入れ、いつも応援してくれた。先生からの教えや励ましが、今の私の心の支えとなっている。また、幼少期にいじめを受けて辛かったこと、いじめられている友人を助

大丈夫 未来は絶対に明るい

「趣味・得意なこと
趣味 飲むこと 食べること
嫌いなこと 辛いこと 素直に表現
コレットがあればいい
得意なこと 物事をポジティブに考えられること
タイプに考えられること
教員生活でのやりがい
生徒と一緒に笑い、泣き、喜び、悩むなど、同
「少し高いハードル」を
飛び越えようとしている。
それを見た仲間たちが目
「これやこの行くも帰るも
別れては知るも知らぬも
このころが、あの東国へ行く人も都へ帰る人もここで別れ、また知っている人も知らない人も、ここで会うという逢坂の関なのだなあ、これは「行く/帰る」「知る/知らぬ」「別れる/逢う」という三組の対句を用いることで、関所の人々の様子として、関所の様子が重なり、出会ったものは必ず別れる定めにあるという会者定離の無常観や人生の無常を感じられる歌だ」といふ。

傍若無人

私達は人生において多くの出会いと別れを繰り返している。小倉百人一首の十番に琵琶法師である蝉丸が詠んだ歌がある。
「これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬも逢坂の関」

新聞部員急募!!!
☆各種大会への出場実績アリ
☆先輩も可能な部なので安心
☆入部希望者は連絡先を北村先生まで

〈甲一新聞部員〉
中村 光希 坂江 和香
高橋 玲衣 山本 凜